

網干神社は地元新在家では「えべっさん」として親しまれている。ご祭神は、<sup>コトシロヌシノカミ</sup>事代主神 <sup>スミヨシノカミ</sup>住吉の神  
<sup>オオクニヌシノカミ</sup>大国主神 <sup>シオガマノカミ</sup>塩竈の神 <sup>イナリノカミ</sup>稲荷の神 の五柱であるが、明治43年(1910)一村一社の方針に従い、新在家の内にあったこれら五柱の神を合祀し、<sup>コトシロヌシノカミ</sup>事代主神が祀られていた「えべっさん」のすぐ傍に社殿を新築造営し、網干神社と改称されたからである。新在家では、古くは塩、漁撈など日々のなりわいを海に求める者が多かったため、海と関係が深い「えべっさん」がこの地に祀られた。実際、昭和30年代までは神社の近くに船溜まりと魚市場があり、漁港として機能した場所でもあった。他のご祭神を見ても、<sup>スミヨシノカミ</sup>住吉の神も海にゆかりが深く、<sup>オオクニヌシノカミ</sup>大国主神と<sup>シオガマノカミ</sup>塩竈の神は元は塩田の守り神として現在の問屋川公園の辺りに祀られており、海になりわいを求める人々の守り神である。<sup>イナリノカミ</sup>稲荷の神は龍野藩蔵屋敷より移設されたもので別の視点から歴史を物語ってくれる。

明治43年当時は役場に隣接し、現在でも新在家自治会館、消防団車庫、檀尻蔵がある町の中心地に位置する網干神社の社殿はそれにふさわしく大変立派なものだ。町役場も大正3年(1914)、煉瓦造の立派な庁舎を現在の本町交番の辺りに新築している。大正4年(1915)5月13日の大阪毎日新聞の記事にセルロイド会社の工事で数十万円の資金が網干町に散りそれが町の発展の基礎となった旨の記述があり、これらの建設がダイセルの誘致時期と一致していることは偶然ではないと思われる。

大正11年(1922)に建立された神社外周の玉垣を見ると、新在家の各町名や商店主などの名前が多くあり商業の隆盛を示している。昭和3年(1928)頃、境内に映画館「網干館」が開館し、新在家は歓楽街としても賑わった。昭和21年(1946)網干町は姫路市に編入されたが、網干館が閉館した昭和40年代まで賑わいは衰えなかった。昭和50年(1975)建立の玉垣の一部は煉瓦の上に石の玉垣が乗る珍しい造りになっているが、これは網干館の煉瓦塀を撤去した跡である。多くの歴史を物語る網干神社では今も商売繁盛が祈願される。

網干歴史講座 有本浩二

・ 網干神社全景



・ 網干館塀跡の煉瓦上に玉垣が造られている



・ 初戎 (2023.1.15)

屋台、ゲームなど地域住民の手で運営されている

神事

